



Storybooks Canada

storybookscanada.ca

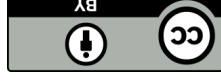
ノジベリと三本の髪の毛

Written by: Tessa Welch

Illustrated by: Wiehan de Jager

Translated by: Masato Tanaka

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 International License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>



ノジベリと三本の髪の毛



Tessa Welch

Wiehan de Jager

Masato Tanaka

Japanese

Level 3



むかしむかし、三人の女の子が薪を集めに出かけました。



すると、犬はノジベレが自分をだましたことに気がつきました。犬は村に向かって走り続けましたか、村ではノジベレの兄弟が大きな棒を持って待っていました。犬はふり返って走りさっていき、それ以来現れることはありませんでした。



その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎに行きました。三人は水遊びをしたり水の中を泳いだりしました。



突然、三人はおそい時間になっていることに気がつき、急いで村に帰ろうとしました。



犬は家に戻るとノジベレを探しました。
「ノジベレ、どこにいるんだい！」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。



犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ速く村へ向かって走りしました。



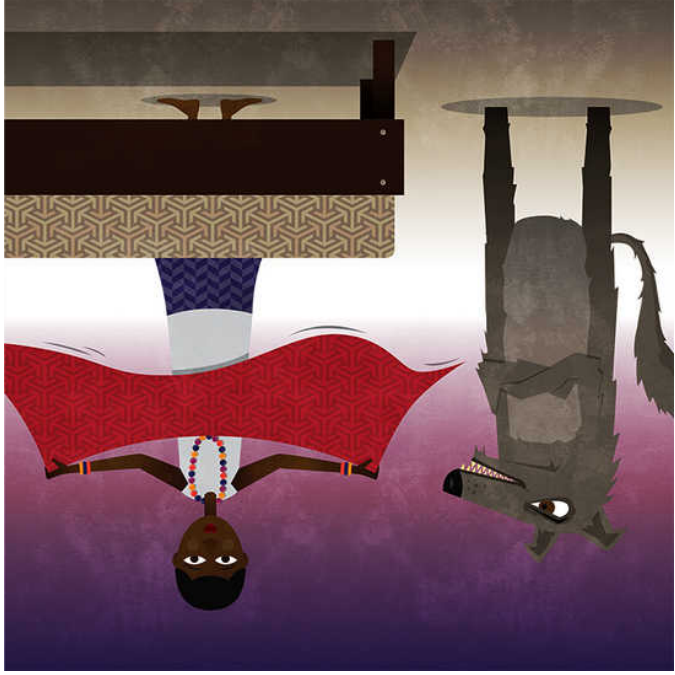
村の近くまで来たところで、ノジベルが首元に手を当てました。ノジベルはネットクレスを忘れてきてしまったのです。「お願い、一緒に戻って！」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いました。



ノジベレは一人で川に戻ることにしました。ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまったのです。



ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せんたくをしました。ある日犬がこう言いました。「今日は友達のところに行かないで帰ってくる前にそうじやせんたくをして、何か作っておくんだよ。」



すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言い
ました。ノジベレが「犬のベッドを用意し
たことなんかいいわ」と答えると、「用意
しないとかみつくよ！」というので、彼女
はベッドを用意しました。



遠くに小屋の光が見えました。そこに急い
で向かい、扉をたたきました。



驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい？」と言いました。「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。



中に入ると、犬が「何か作ってくれ」といいましたが、ノジベレは「犬にごはんを作ったことなんかないわよ」と言いました。すると犬は「作らないとかみつくよ！」というので、ノジベレはごはんを作りました。